

2026 年度シラバス

科目分類/Subject Categories			
学部等/Faculty	/工芸科学部/工芸科学部 : /School of Science and Technology/School of Science and Technology	今年度開講/Availability	/有/有 : /Available/Available
学域等/Field	/全学共通科目/全学共通科目 : /Program-wide Subjects/Program-wide Subjects	年次/Year	/1年次/1年次 : /1st Year/1st Year
課程等/Program	/基盤教養科目/人間教養科目(2023年度以前入学者) : /Liberal Arts/Liberal Arts(Course for students enrolled before 2023 academic year)	学期/Semester	/前学期/前学期 : /First term/First term
分類/Category	//工芸科学教養科目 : //Science and Technology Liberal Arts	曜日時限/Day & Period	/月5 : /Mon.5

科目情報/Course Information				
時間割番号 /Timetable Number	10111506			
科目番号 /Course Number	10160157			
単位数/Credits	2			
授業形態 /Course Type	講義 : Lecture			
クラス/Class				
授業科目名 /Course Title	京都の自然 : Natural Resources in Kyoto			
担当教員名 / Instructor(s)	/(平山 貴美子)/他 : HIRAYAMA Kimiko/etc./			
その他/Other	インターンシップ実施科目 Internship	国際科学技術コース提供科目 IGP	PBL 実施科目 Project Based Learning	DX 活用科目 ICT Usage in Learning
	実務経験のある教員による科目 Practical Teacher			
科目ナンバリング /Numbering Code				

授業の目的・概要 Objectives and Outline of the Course	
日	京都府は、本州のほぼ中央に位置し、日本海から内陸にいたる細長い地域である。標高 1000m を超えるような山は存在しないが、日本海に面する北部地域から丹波高地、そして古くから人との関わりが大きかった京都盆地、山城地域と多様な自然環境が見られる。本講義では、このような京都の自然環境について、地質学、土壌学、水文学の専門的観点から解説を加えるとともに、生息する野生生物の分布やその地史的・進化的背景、人間活動との関わりについて紹介する。 京都の自然という、身近な自然で起こっている現象について専門的な見地から
英	

学習の到達目標 Learning Objectives	
日	
英	

学習目標の達成度の評価基準 / Fulfillment of Course Goals (JABEE 関連科目のみ)	
日	
英	

授業計画項目 Course Plan			
No.		項目 Topics	内容 Content
1	日	第 1 回	ガイダンス
	英		
2	日	第 2 回	京都の気候と植生
	英		
3	日	第 3 回	京都盆地周辺の現在の森林の変化
	英		
4	日	第 4 回	京都盆地周辺の森林の変化に伴う生物の変化
	英		
5	日	第 5 回	地質・地形の発達史
	英		
6	日	第 6 回	土壌の生態系サービス
	英		
7	日	第 7 回	京都の水環境
	英		
8	日	第 8 回	京都の昆虫
	英		
9	日	第 9 回	京都の水辺（湿地）の昆虫
	英		
10	日	第 10 回	京都の生物と感染症の実態
	英		
11	日	第 11 回	森林病害虫と京都の森林
	英		
12	日	第 12 回	京都の自然災害と里山ライフスタイル
	英		
13	日	第 13 回	京都の脊椎動物相とその成り立ち
	英		
14	日	第 14 回	京都の外来爬虫両生類問題
	英		
15	日	第 15 回	生物多様性と保全
	英		

履修条件 Prerequisite(s)	
日	当「京都の自然」は 2019 年度まで開講の「京都の自然と森林」と内容が重複している。「京都の自然と森林」を履修したものは受講できない。
英	

授業時間外学習（予習・復習等） Required study time, Preparation and review	
日	この講義で取り上げたテーマは、日々、京都の新聞やテレビなどでも関連する話題が扱われます。それらを注意して読んだり見たりするとより深く理解できます。また、講義で扱った身近な自然を実際に体験することは、さらに京都の自然の理解につながります。 本講義に対しては、67.5 時間の予復習に充てる自己学習時間が必要である。
英	

教科書／参考書 Textbooks/Reference Books	
日	資料の配付
英	

英	
---	--

成績評価の方法及び基準 Grading Policy	
日	担当教員ごとの小テストあるいはレポート成績の総合評価
英	

留意事項等 Point to consider	
日	「本科目は対面授業を基本として行う。 詳しくは京都工繊大学の moodle の「京都の自然」を参照のこと。」
英	